

第2回塩竈市総合教育会議 概要報告

1. 日 時 令和元年 11 月 29 日
開会 13 時 30 分 閉会 15 時 05 分

2. 会 場 塩竈市民図書館 視聴覚室

3. 出席者 塩竈市長 佐藤 光樹
塩竈市教育委員会
教育長 高橋 睦麿
教育長職務代理者 柴田 仁市郎
委員 池野 暢子
委員 佐浦 弘一
委員 松田 攝子

(事務局)

市民総務部長	小山 浩幸
市民総務部理事兼政策調整監	荒井 敏明
市民総務部政策課長	末永 量太
市民総務部政策課企画係長	引地 洋介
教育部長	阿部 光浩
教育部次長	本田 幹枝
教育部参事兼学校教育課長	遠山 勝治
教育部教育総務課長	佐藤 聡志
教育部生涯学習課長	伊藤 英史
教育部市民交流センター館長	井上 靖浩
教育部教育総務課総務係長	中村 顕介
教育部教育総務課総務係主査	星井 絵名

(事業説明者)

教育部学校教育課小中一貫教育推進専門官 弓田 宣弘

4. 協議事項 議題1 塩竈市教育大綱・塩竈市教育振興基本計画の策定スケジュール
について
議題2 子どもの夢を育むまちづくり に関する主要な取組みについて
(1) 塩竈市独自の小中一貫教育の推進について
(2) 放課後・休日の学習支援について
議題3 豊かな心を培うまちづくり に関する主要な取組みについて
(1) スポーツ奨励基金・スポーツ奨励事業について

5. 概要

- 開会
- 佐藤市長あいさつ
- 出席者紹介
- 協議事項

議題1 塩竈市教育大綱・塩竈市教育振興基本計画の策定スケジュールについて

(説明者：教育部教育総務課長 佐藤 聡志)

資料に基づき提案した後、意見交換をおこなった。

【主な意見】

- 〈柴田委員〉 “塩竈ならではの” “塩竈っ子” とは具体的なイメージがあるのか。
- 〈佐藤課長〉 海、歴史、文化など他の市町村に比べて優れた資源がある。ふるさとを愛して育っていく場所としていいところだと考えている。地域の財産を活かしながら、一人ひとりが生きる力を育み、ふるさとに誇りを持って成長できるような取り組みにしていければいいと考えている。
- 〈柴田委員〉 自分も同様のイメージを持っている。子どもと触れ合う教員へも同じようなイメージを持って指導ができるのかが、大事だと思っている。浸透できるようなわかりやすい表現があるとよいと思う。
- 〈池野委員〉 2 ページに参考として掲載されている成果指標について、学力・学習状況調査について小学生で全国平均を上回ることができたと以前の報告で受けたが、全国、宮城県平均との比較も参考としてうかがえるか。
- 〈遠山学校教育課長〉 全国学力学習状況調査の県平均との比較で、本県は昨年度、全国の中なかでも最下位に近い成績であり、本市は、仙台を除いた県平均の真ん中からやや下の成績であった。
- 〈佐藤市長〉 具体的な数値にて今お示しできないのか。
- 〈佐藤教育総務課長〉 2-①の資料にある通り小学生が全国で国語+3.2 ポイント算数+0.4 ポイントであった。
- 〈松田委員〉 策定スケジュールに示してある点検評価の内容について教えていただきたい。
- 〈佐藤教育総務課長〉 点検評価は、学識経験のある点検評価委員に施策に応じた成果を総括・評価していただいている。この結果を参考に、今後の策定については学識経験者のみならず、父母教師会のご意見なども伺いたい。パブリックコメントについても、広く市民へ意見を求めるために概ねの素案がまとまった段階にてホームページなどで公表し意見聴取を行おうと考えている。

〈佐浦委員〉 確認だが、教育振興基本計画が具体的な施策とその指標を示したもので、これに基づいて毎年の教育施策に取り組む。実際の進行管理は毎年の教育施策の立案実行の中で行うということによいか。

〈佐藤教育総務課長〉 点検評価にて、随時振り返り、次年度に活かしていく。

〈佐浦委員〉 教育振興基本計画は、目標値を掲げるところまでという認識でよいか。本日の議論は塩竈市教育大綱と塩竈市教育振興基本計画との組立てを踏まえた上で、スケジュールを承認するということによいか。

〈佐藤教育総務課長〉 その通りである。

議題2 子どもの夢を育むまちづくり に関する主要な取組みについて

(1) 塩竈市独自の小中一貫教育の推進について

(説明者:学校教育課長 遠山 勝治、小中一貫教育推進専門官 弓田 宣弘)

活動状況について報告した後、意見交換をおこなった。

【主な意見】

〈佐浦委員〉 幼稚園・保育園などで事業に対する反応や温度差はあったか。

〈遠山学校教育課長〉 当初は、幼稚園や保育所、保育園に受け入れてもらえるのかという不安はあったが、実際には、幼稚園も保育所も、保護者対応や子どもたちのしつけなど、小学校と同じような悩みを抱えていることがわかり、コラソンに配属されている作業療法士の資格を持つスーパーバイザーの訪問もスムーズに受け入れていただいた。現在では、定期訪問だけではなく、スーパーバイザーに対する要請訪問も増えてきている。

〈佐浦委員〉 連携は進んでいるという理解でいいか。

〈遠山学校教育課長〉 すべてが同じではないが、足並みがそろい始めている。

〈松田委員〉 アプローチ・スタートカリキュラムは非常に有効な冊子であった。保護者・幼稚園教諭などの意見も入れることができたと思っている。子育てに差が出ないように、活用の働きかけをお願いしたい。見直しも毎年できる会議が行われているということによいか。

〈遠山学校教育課長〉 先駆的に取り組んでいる埼玉県入間市のものを本市の児童の実態に合う形に再編成している。年3回の会議を行い、その都度見直しを図っている。常により良いものを作っていきたいと思っている。

〈柴田委員〉 学びの共同体について、成果が出ているので、ぜひこれからも推進していただきたい。

〈遠山学校教育課長〉 学びの共同体の授業改善を始める前は、授業に参加できていない子どもの割合が、小学校低学年 10%、高学年 15%、中学校 25～30%であった。全員

が参加できる授業づくりに取り組んだ結果、現在は、ほとんどの子ども達が生き生きと授業に参加できるように取り組んでいる。委員の皆様にも公開授業をぜひ見に来ていただきたい。

〈佐藤市長〉 私立と公立は違うということは大事な視点だと考えている。私立は独自の教育の方針があるので、私立に公立がどこまで介入していいのかというのは、大変繊細なところである。私立からの意見はあったのか。

〈遠山学校教育課長〉 私立の幼稚園等が独自の教育方針をもち教育活動を行っていることには十分に配慮しているが、私立幼稚園・私立保育園から公立小学校への入学も多い。こちらからの押し付けにはならないようにご協力いただいている。実際には、どちらかという、公立の保育所より私立幼稚園からの訪問要請が多いという状況もある。それぞれのニーズを確認しながら進めていきたい。

〈弓田専門官〉 ひらがな表については、「多賀城市からの通園があるので、その子の分もいただきたい」などの喜ばしい意見もあった。小学校に向けてどのように指導をしていったらいいかと悩んでいたのは、私立も公立も同じであった。訪問について、最初は“何しに来たのか？”という雰囲気も一部あったが、11月の訪問は、“ウェルカム”の雰囲気がたくさん話題提供があった。幼保から小学校への参観回数も増えていったのも、成果の表れであると考えている。

〈高橋教育長〉 取り組む前、小学校の入学式など座っていられなくて、席を立つ子どももいた。ここ数年そういう子どもが少なくなり、幼保からの接続がうまくいき、小1ギャップが減っていると思っている。

〈松田委員〉 QU 調査の結果、不満足群に入った子どもへの支援についてのお考えを伺いたい。

〈遠山学校教育課長〉 不満足群は個別の指導が必要な子どもたちが多くと考えている。特に本市は、発達障害等を抱えた子どもの割合が12%おり、全国の6.5%に比べるとだいぶ多い。担任が中心となり、各校に2名ずつ配属されている特別教育支援員とともにケアを行っている。それぞれの学級担任に対し、望ましい学級経営の在り方についても指導していきたい。

〈高橋教育長〉 クラス担任が感覚で「うちの学級はうまくいっている」と思うのではなく、どの子が不満をもっている、クラスに入れられない状況があるなどを“見える化”して担任が確認できる仕組みとして導入している。

- (2) 放課後・休日の学習支援について
(説明者：教育総務課長 佐藤 聡志)

資料に基づき報告した後、意見交換をおこなった。

【主な意見】

〈柴田委員〉 参加条件があるようだが、参加資格の確認、経済状況の調査などで、不都合はないか。

〈遠山学校教育課長〉 被災、要保護、準用保護に該当する子ども達の割合は全体の22%にのぼる。事業についてはこれらに該当する全世帯に案内を出し、希望者が申し込む形になっている。

〈佐浦委員〉 家庭での学習時間が少ないのには各々の事情もあると思うが、チャレンジ教室で勉強法を習得し家庭学習の時間が確保できたなど、改善や効果についての追跡調査はしているのか。

〈遠山学校教育課長〉 チャレンジ教室に通っている子どもにフォーカスした効果の調査は行っていない。本市の場合、家庭での学習時間が伸びない大きな要因の一つは、スマホ・メディア依存と考えている。そこで、各学校の児童会や生徒会の子ども達が集まる「アルカス塩釜」で、子ども達が主体的にスマホ・メディア依存対策に取り組む活動を行っている。

〈佐浦委員〉 学校ではどの子が登録しているか把握していないのか。把握していれば、学校生活の改善や伸びを効果測定につながるができるのではないか。

〈遠山学校教育課長〉 登録しているところまでは学校で把握しているので、効果測定についても学校の協力を得たいと思う。

〈松田委員〉 今後の取り組みの中で「人材の活用」とあるが、今の教員経験者を採用しているものから、ボランティアに切り替わるということか。長期休業中に青山学院大学の学生なども来ているが、近隣の大学との連携などもお考えなのか。

〈佐藤教育総務課長〉 青山学院大学などからサマースクールのご支援をいただいてもいるが、基本は中核となる方とそれを支援するボランティアという枠組みで行いたい。現在検討中ではあるが、わくわく遊び隊の運営を例に学校を中心とした地域の人材に協力いただき、広く行っていきたい。

議題3 豊かな心を培うまちづくり に関する主要な取り組みについて

(1) スポーツ奨励基金・スポーツ奨励事業について

(説明者：生涯学習課長 伊藤 英史)

資料に基づき説明した後、意見交換をおこなった。

【主な意見】

〈柴田委員〉 基金の活用の仕方は慎重に行わないといけないと考える。“もらえるのが当たり前”という感覚が蔓延してしまうのもよくないので、バランスを考えて進めていただきたい。

〈池野委員〉 各市町村の金額比較を見ると、塩竈市の現状はかなり少額であることを実感した。

〈佐藤市長〉 保護者からもその意見をいただいております、東北大会出場など、家庭での旅費負担が経済状況も含めて大きくなっているため、支援が必要と考えていた。一定の歯止めは必要ではあるが、子どもたちの夢を応援するという意味では、必要な仕組みであると考えている。

〈佐浦委員〉 自治体がどこまで支えるのかは複雑な思いもある。市内にある高校は県立であり、県や高校が手法を考えることも必要ではないか。代表選手が塩竈から出るのは喜ばしいことではあるため、複雑なところである。

〈松田委員〉 子どもたちの心と体の成長にスポーツの役割は大きいので、金銭面のみならず支援の充実が必要と考えている。

○閉会